

6/30 2008



# Japan Music Education Society News Letter

第32号

No.32

## 日本音楽教育学会ニュースレター

### 目次

1. 会長挨拶 .....	2
2. 報告・お知らせ	
2-1 平成 20～21 年度役員および委員の一覧 .....	4
2-2 平成 20 年度第 1 回理事会・常任理事会報告 .....	5
2-3 編集委員会の報告とお知らせ .....	11
2-4 40 周年記念事業について .....	15
日本音楽教育学会記念誌「40 年の歩み」	
40 周年記念論文集 第二次募集のお知らせ	
2-5 国際交流委員会からのお知らせ .....	17
2-6 ISME 第 28 回世界大会のご案内 .....	18
2-7 第 39 回全国大会日程・企画について .....	19
2-8 夏期ワークショップのご案内 .....	21
3. 事務局からのお知らせ .....	22
3-1 事務局長挨拶	
3-2 事務局スタッフより	
編集後記 .....	23

# 1. 会長挨拶

## ごあいさつ

日本音楽教育学会会長 吉田 孝



本年4月より2年間会長を務めさせていただくことになりました。北山副会長、齊藤事務局長をはじめ素晴らしい役員・各委員会委員といっしょに無事に任期を迎えることができました。また、引き継ぎにあたって前役員の皆様にも貴重なご助言をいただきました。

会長就任に当たって、三点にわたって私の考えを述べさせていただきます。

第一は、この2年間の活動方針です。すでに理事会でもお話しましたが、基本的にはこれまでのやり方を継承するということです。

2006年の会則の改正により今期の役員から任期が2年間に短縮されました。2年間のうち初年度(20年度)の計画はすでに昨年11月の総会で決定されています。この1年間は総会で決定されたことを実行しなければなりません。また、次年度に関しても、今年8月くらいまでに計画を立案しなければなりません。次年度は学会創立40年目にあたります。創立40年の企画もすでに決定しています。この時点で大きく方針を転換することは

適切ではありません。この2年間は、すでに決定している計画を確実に遂行したいと考えています。

第二は、基本的にはこれまでのやり方を継承しつつも、いくつかの点で改革に着手しなければならないということです。

前会長および執行部からの引き継ぎを通して、また会長に就任してわかったことですが、本学会は役員および各委員の奉仕と過大な自己犠牲によって運営されて来ました。現在、学会誌を2種類発行しています。また、大会の他、地区例会、ゼミナール、ワークショップなど多様なイベントを開催しています。そのことで、一部の役員や担当の委員に多大な負担がかかっています。また、学会財政は今のところ前執行部の努力で単年度の赤字は避けられていますが、それは会議のさいに宿泊費をカットしたり交通費を返上してもらうなど、役員の自己犠牲によるものです。このような運営は、いつまでも長続きするものではありません。学会が安定的な運営を続けて行くには、出版物やイベントの見直しも必要です。私個人としては、学会運

営をもっとシンプルにできないかと考えています。また、活動の思い切った縮小も必要だと考えています。この点については「学会活動検討委員会」を設置して検討していくことにします。すでに理事会において委員会の設置が承認され、現在委員の人選を進めているところです。また、この件に関しては会員の皆様からも広くご意見を募集したいと思います。

第三は、会員の皆様へのお願いです。それは、学会運営に今より少しだけ関心をもっていただきたいということです。

本学会は、この10年ほどの間に何度かの会則の改正を行い、開かれた学会、民主的な運営をめざして制度の改革を進めてきました。その面ではどの学会にも劣らないすばらしい会則を持つ学会だと自負しています。しかし、現実を見るとそのような制度が十分に生かされているとは言いきれません。

推薦も立候補もしないで会員が自由に投票できる（被選挙権者には一定の条件が必要）会長選挙が昨年はじめて実施されましたが、投票数は有権者1,306人中327人、投票率は25%に過ぎませんでした。そして私への投票はそのうちの62票、つまり全有権者の4.7%に過ぎませんでした。これでは会員の意思を反映した会長とは言

えません。もちろん少数でも私に投票してくださった方々の意思は貴重ですから、会長をお引き受けすることにしましたが、このような低投票率は問題だと言わなければなりません。どなたが選出されるにしても、今回は高い投票率で選挙が行われるよう願っています。

また、毎年の大会の際に開かれる総会の出席が少ないことも問題です。昨年の岐阜大での総会の出席者は83名でした。去年は役員交代もあったせいか、例年よりも多かったのですが、300名余の参加のあった大会にしては少ないと言わざるを得ません。中には、総会を欠席してそのあとの懇親会に出席される方もいらっしゃいます。懇親会のほうが会議より楽しいには決まっていますが、総会にもぜひ出席してほしいものです。選挙と総会に限らず、ニュースレター、ホームページ、学会誌等を通して学会運営にぜひ目を向けていただきたく思います。

会長として、気がつかないこと、行き届かないことも多々あると思います。また、会長や執行部の方針にご不満を持つ方もいらっしゃると思います。会員の皆様には、執行部に対して率直なご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 報告・お知らせ

### 2-1 平成 20～21 年度役員および委員の一覧

	氏名(所属)	選出地区	担当
会 長	吉田 孝 (弘前大学)		
副 会 長	北山 敦康 (静岡大学)	東海	
事務局長	齊藤 忠彦 (信州大学)	◎北陸	
常任理事	小川 昌文 (横浜国立大学)	関東	企画
	田中 健次 (茨城大学)	関東	会計
	八木 正一 (埼玉大学)	関東 (北陸補佐)	編集委員
	嶋田 由美 (和歌山大学)	近畿	総務
	杉江 淑子 (滋賀大学)	近畿	企画
	三村 真弓 (広島大学)	中国・四国	企画
	津田 正之 (琉球大学)	九州	総務
理 事	尾藤 弥生 (北海道教育大学)	◎北海道	
	降矢美彌子 (帝京平成大学)	◎東北	
	佐野 靖 (東京芸術大学)	関東	企画
	筒石 賢昭 (東京学芸大学)	◎関東	
	坪能由紀子 (日本女子大学)	関東	企画
	藤沢 章彦 (国立音楽大学)	関東	企画
	本多佐保美 (千葉大学)	関東	会計
	村尾 忠廣 (愛知教育大学)	◎東海	総務
	安田 寛 (奈良教育大学)	◎近畿	40周年記念論文集
	吉富 功修 (環太平洋大学)	◎中国・四国	編集
岩崎 洋一 (福岡教育大学)	◎九州	40周年記念誌	
会計監事	奥 忍 (京都嵯峨芸術大学大学院)		
	今川 恭子 (立教女子学院短期大学)		

◎は地区担当理事

編集委員会	委員長：榎藤敦子 (2期目) 副委員長：村尾忠廣 (1期目) 委員：岩田遵子 (2期目), 水戸博道 (2期目), 有本真紀 (1期目) 今川恭子 (1期目), 今田匡彦 (1期目), 加藤富美子 (1期目) 澤田篤子 (1期目), 中山裕一郎 (1期目) 八木正一 (常任理事互選), 吉富功修 (理事互選)
国際交流委員会	委員長：藤井浩基 (2期目) 副委員長：小川容子 (1期目) 委員：近藤真子 (2期目), 村尾忠廣 (1期目), 田中健次 (理事選出)
音楽文献目録委員会	委員：斎藤 博, 関口博子, 山下薫子
40周年記念論文集 編集委員会	委員長：安田 寛 委員：今川恭子, 小川容子, 阪井 恵, 杉江淑子, 南 曜子
40周年記念誌 編集委員会	委員長：岩崎洋一 委員：尾藤弥生, 降矢美彌子, 筒石賢昭, 津田正之

## 2-2 平成20年度第1回理事会・常任理事会報告

日時：平成20年5月11日（日）13：00～16：20

会場：立教大学12号館地下1階 第2会議室

出席：吉田，北山，齊藤，八木，田中，嶋田，杉江，三村，津田，尾藤，佐野，  
筒石，藤沢，吉富，安田，村尾，岩崎，小川

[会計監事] 奥，今川 \*会計監査報告時のみ

[事務局] 岩淵，亀山，山本

欠席：坪能・降矢

記録：小川

### 【会務報告】（齊藤）

平成20年 2月16日 平成19年度 第4回常任理事会

2月17日 平成19年度 第4回編集委員会

3月30日 ニュースレター第31号発行

3月31日 音楽教育実践ジャーナル vol.5 no.2 発行

4月19日 平成20年度 第1回編集委員会

4月30日 音楽教育関係文献リスト申請締め切り

5月11日 平成19年度会計監査

平成20年度第1回40周年記念論文集編集委員会

### 【審議事項】

#### 1. 平成19年度決算報告および監査報告（奥・今川前常任理事，杉江前会計監事）

今川前常任理事より，平成19年度の一般会計報告の後，八木理事より繰越金についての質問があったが，その経緯について今川前理事の説明があった。続いて特別会計についての会計報告の後，杉江前会計監事より会計は正しく処理されているとの監査結果が報告された。その後，賛成多数により前年度会計報告が承認された。

#### 2. 常任理事の追加について（吉田）

八木理事（埼玉大学）および津田理事（琉球大学）の常任理事の追加の提案が行われ承認された。

### 3. 理事の退会および理事の補充について（吉田）

関東地区選出の井口理事より退会の申し出を受け、それに伴う理事の退任を承認するかどうかを検討したが、村尾理事より会長から本人に慰留してはどうかという提案があり、結論として、吉田会長が井口氏に慰留を行い、もし本人が固辞した場合、次点である、本多氏（千葉大学）が繰り上がることを確認した。

### 4. 各委員の承認について（吉田）

編集委員会、国際交流委員会、音楽文献目録委員会、40周年記念論文集編集委員会が提案され承認された。〔詳細は別記〕

### 5. 理事の役割分担について（吉田）

坪能、佐野理事には企画、村尾理事に総務担当を要請する提案があり承認された。

### 6. 事務局体制について（齊藤）

平成20年度の事務局スタッフの体制が提案され、本部は従来通り小金井市に配置し、亀山、山本さんが担当、編集業務は広島にて、光平さんが担当することが提案され承認された。〔詳細は別記〕

また、防犯上等の理由より事務局の移転を検討中であることが述べられた。

### 7. 平成20年度事業計画および予算について（齊藤・田中）

事務局長より事業の確認があり、全会一致で確認された。続いて会計担当田中理事より、既に昨年の総会で承認されているので今回は改めて提示しない旨が述べられた。

### 8. 平成21年度事業計画および予算について（齊藤・田中）

事務局長より平成21年度の事業計画の提案が行われ承認された。なお、八木理事より、全国大会の日程が近年11月になっていることについての意図について質問があり、それに対して村尾理事、藤澤理事、津田理事が過去大会の日程決定の経緯について述べられた。

続いて、会計担当田中理事より平成21年度予算案について大まかな説明が行われた。その中で、① 本日は承認せずに、後ほどMLで最終案を配布し、最終決定は次回の理事会で行いたいこと、② 旅費・交通費および事務局費用を増額したいこと、研究出版基金のために繰越金および特別基金（学会基金、研究出版基金）からどれだけ組み込むか現時点で不明なので確定できないこと、③ 平

成21年事業計画予算案を今年度の全国大会要項（冊子）に刷り込まず、当日資料として提示したいこと、の3点が提案された。

それに対して、吉富理事より一度平成20年度の補正予算を行い、その上で改めて21年度予算案を組み直すことが提案された。

上記内容は承認された。

さらに、会計担当の役員をもう一人増員してほしいという田中理事の要請に対して、その旨が承認され、具体的には後日決定することが承認された。

## 9. 第39回全国大会について

### ○大会企画推進状況（藤沢）

藤沢理事より、日程案の提示〔詳細は別記〕、院生フォーラムについての準備のプロセスについての質問、発表における人権に関わる問題の3点が述べられた。

それに対して、院生フォーラムについては、会場校は場所を提供するのみであることが確認され、今年度の関東院生連絡会幹事校への連絡は佐野理事が主として行うことが確認された。また、人権の問題は原則として発表者の責任であることが北山副会長より確認されたが、執行部としても注意を喚起することを確認した。日程についても承認された。

### ○常任理事企画（三村・佐野）

まず、三村理事よりプロジェクト研究の常任理事企画案として「新学習指導要領を読む」の概要が報告された。続いて「教員養成大学のイノベーション」についての概要が佐野理事より報告された。

## 10. 第40回大会開催校について（吉田）

第40回大会を広島大学を会場校としたい旨が提案され承認された。

## 11. 学会活動検討委員会の設置について（吉田）

学会活動検討委員会設置の提案があり承認された。なお、人選については後日提案することにした。

## 12. 新入会員および退会者について（齊藤）

新入会員21名、申し出退会者35名、自然退会47名の報告があり承認された。

平成20年4月30日現在、正会員数1472名。

## 新入会員（平成20年2月16日以降）

会員番号	氏名	所属先
3504	櫻井 知子	近畿大学豊岡短期大学
3505	久保田浩文	北海道教育大学附属釧路中学校
3506	山本花菜子	岡山大学（院生）
3507	石割美紗子	滋賀大学（院生）
3508	山崎 浩隆	熊本市立春日小学校
3509	小林 剛志	東京大学（院生）
3510	宮本賢二郎	浜松学芸高校
3511	渡子かおり	エリザベト音楽大学（院生）
3512	森尻 有貴	東京学芸大学（院生）
3513	山崎 智	
3514	李 楠	福岡教育大学（院生）
3515	木下 千代	兵庫教育大学
3516	寺田 純子	茨城県教育研修センター
3517	山口 英樹	武庫川女子大学
3518	新海 節	帝京学園短期大学
3519	廖 明智	長崎大学（院生）
3520	計良 洋美	宮若市立宮田中学校
3521	藤澤 一花	横浜国立大学（院生）
3522	安田 伸子	甲子園短期大学
3523	水野 伸子	岐阜女子大学
3524	川村 恭子	広島大学（院生）

### 【報告事項】

#### 1. 各委員会報告

##### (1) 編集委員会（八木）

権藤編集委員長から理事会への要望事項について、①『音楽教育学』への投稿がきわめて少ないので投稿を呼びかけてほしい、②編集作業に若手の研究者に加わってもらいたい、③中国四国地区の例会報告が3ページを超える予定なので、その対応について審議してほしい、の3点が提示された。

これに対して①は了承、②さらに検討課題とする。③今回はオーバーしているものもそのまま掲載する。（注）



次号以降は次のように取り扱う。刷り上がり2頁以内とする。学会員以外の概要については基本的に掲載しない。但し、シンポジウムや講演などで学会員以外に依頼したような場合は、地区理事の判断で概要などを掲載することもある。

## (2) 国際交流委員会 (田中)

田中常任理事より資料に基づいて報告があった。

## (3) 音楽文献目録委員会 (山下委員→齊藤)

山下委員からの資料をもとに齊藤事務局長より報告があった。

## 2. 夏期ワークショップについて (杉江)

杉江常任理事より、資料に基づいて報告があった。[詳細は別記]

## 3. 40周年記念事業について

### (1) 40周年記念論文集編集委員会 (安田)

有効投稿論文数16本があり、最終結果を近日中に投稿者あてに通知する。2次募集を9月末日締め切りで行う予定である。音楽之友社との出版交渉はまだ正式に締結されていないので、早急に確定する予定である。

### (2) 40周年記念誌 (岩崎)

担当を理事のなかから選出していただきたい旨があった。出版は広島大会に配布できるように予定している。

## 4. 韓国音楽教育学会からの招待について (吉田)

平成20年8月14, 15日に韓国音楽教育学会夏期セミナーに会長が招待され、「日本の音楽教育の状況」についての講演(プレゼンテーション)を行う予定である。

## 5. 例会報告 (各地区担当理事)

各地区担当理事より例会報告がなされた。

## 6. ニュースレターについて (嶋田)

嶋田常任理事より資料に基づいて報告があった。

## 7. 学会HPについて (齊藤)

例会開催予定について早めに送付する旨要請があった。

(注) ③については、最終的に当該地区が2ページに修正した。



理事会・常任理事会 立教大学にて (5月11日)



編集委員会 立教大学にて (4月19日)

## 2-3 編集委員会の報告とお知らせ

編集委員会委員長 権藤敦子

### 【報告】

さる4月19日(土)、立教大学において、平成20年度第1回編集委員会をおこないました。平成18年度の会則改正に伴う移行措置により今年度は委員の交代の年にあたり、平成19年度に決定された編集委員増員によって、昨年度に引き続き委員に任じられた3名に加え9名の新委員を迎えて、12名でのスタートとなりました。委員会での互選により、委員長は権藤が務め、副委員長は村尾委員にお願いすることになりました。どうぞよろしくお願いたします。

平成17年度からの第1期より任にあたられ、昨年度第2期を務められた小川容子前委員長、岩井正浩、小川昌文、北山敦康、嶋田由美、松永洋介、平成19年度途中より委員となられた齊藤忠彦の旧委員7名の方々からは、年4回の学会誌の確実な発行に加え、編集委員会業務に関わる要望書提出、学会誌検討委員会での検討、投稿規程の見直しなど、今後のために重要な成果と課題を引き継がせて頂きました。多忙な業務に献身的にあたって頂いたこと、この場を借りて心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

新しい編集委員会の最初の仕事は、『音楽教育学』第38巻第1号、『音楽

教育実践ジャーナル』vol.6 no.1の編集作業、『音楽教育実践ジャーナル』vol.6 no.2の特集企画です。『音楽教育学』第38巻第1号には1件の研究論文、平成19年度音楽教育関係文献リスト、例会報告を収録し、おかげさまで無事発行することができました。ご寄稿頂きました方々に感謝申し上げます。『音楽教育実践ジャーナル』vol.6 no.1は、特集テーマ「音楽表現における集団と個の関係を問い直すー響き合い、共鳴し合って育つ表現を求めてー」のもと、編集委員会外から桂直美氏(三重大学)に加わって頂き、3名のエディターを中心に現在編集作業を進めております。また、3月末発行のジャーナルvol.6 no.2の特集では、「音楽する身体」をテーマといたしました。本稿最後に趣旨を提案いたしましたので、締切日10月31日(必着)に向けて皆様のご投稿をお待ちしております。

会員からの投稿については、昨年度第4回の委員会で『音楽教育学』への投稿3件の審議が行われましたが、論文1件の掲載決定、年度をまたぎ2件は掲載不可(1件は再査読の結果不可)となりました。『音楽教育実践ジャーナル』には3件の自由投稿があり、

審議の終わった2件については、いずれも修正後、実践報告として掲載することになりました。特集投稿には6件の投稿があり、論文1件、問題提起1件、実践紹介1件の掲載が決定しました。

編集委員会は、その規定にも明記されていますように、「『音楽教育学』および『音楽教育実践ジャーナル』の編集を行う」という非常にシンプルな任務の委員会です。しかし、それぞれの雑誌が課題を抱えており、皆様のご意見も伺いながら改善の努力をすることが求められています。『音楽教育学』の場合、投稿数が現在非常に少ないこと、会員にとってより有意義な情報を盛り込む必要性が検討され、投稿の呼びかけを広く行うと同時に、査読体制、投稿規程、英文要旨等の見直し、および、書評等内容の充実に着手することになりました。『音楽教育実践ジャーナル』の場合、投稿数は順調に増えていますが、1冊のボリュームの上限とレフェリーつきの学会誌としての水準を維持するために、編集委員会での採否決定の審議のあり方を見直し、編集業務の過重な負担を軽減するために、雑誌づくりのプロセスを検討することになりました。また、編集マニュアルの改訂、委員関係者の投稿採否決定等に際してのルールづくりなど、公正、確実で、会員から信頼され

る委員会となるべく、業務に関する議論を重ねています。すでに一部の課題には取り組みを始めておりますが、今年度中に会員の皆様に発信してご意見を頂きたいと思っています。

ご存じのように、学会誌は「音楽教育研究の振興」と「音楽教育研究者の親睦と交流」という学会の目的に関わる最も重要な出版物です。学会の顔でもあり、過去と未来をつなぐ貴重な記録ともなるもので、編集委員会には、その目的を自覚しながら会員の皆様にお届けする内容を吟味し、編集する責任があります。また、日本音楽教育学会の学会誌における論文掲載はレフェリーつき論文と認められますので、社会に対する責任もあります。しかし、同時に、学会誌は1500名を超える会員一人ひとりの手もとに送られ、誰でも参加することのできる貴重な交流の場です。これだけ多領域の専門性、多様な音楽教育の場をもった、魅力的な会員の集まりは他の学会にない特色であるともいえましょう。学会誌への関わり方は各人各様であっても、幅広い会員の交流の広場としての学会誌でそれぞれの良さが最大限生かされ、伝わる誌面を目指していきたいと思えます。

第2回編集委員会は8月9日(土)、第3回編集委員会は11月7日(金)に開催予定です。投稿は随時受け付けて

おりますが、7月末日までに届いた原稿については第2回委員会で審議し、査読の結果によっては1月に発行され

る学会誌に掲載も可能です。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

## 【お知らせ】

『音楽教育実践ジャーナル』vol.6 no.2 (通巻12号) 特集・原稿募集

### 特集テーマ：「音楽する身体」

『音楽教育実践ジャーナル』通巻12号(2009年3月発行)の特集に向け、下記の要領で原稿を募集いたします。

今回のテーマは、「音楽する身体」です。

例えば、人がピアノに向かうとき、鍵盤を奏でているのは手指なのか、腕なのか、それを支える背骨なのか、それとも頸と頭なのか、あるいは、心とか、精神などと言われるものなのか、疑問はつきません。

例えば、人がなにかを聞くとき、聞いているのは耳なのか、では、物理的に聞こえない音が聞こえたりするのはどうしてなのか、疑問がつきません。

音楽教育は、この二つの音楽、聴く音楽と、演奏する音楽(バルト1984, p.177)を扱っています。そして、二つの音楽をしているのは、どうも人の身体、ということになりそうです。では、音楽をする身体とはいったいなん

なのか? この際、特集を組んで考えてみるのも悪くはないでしょう。

昔々、死がもっと身近にあった頃、身体とか肉体は、とても儂いものだったのででしょう。聡明な精神や機敏な身体は、あっという間に費えてしまう。それならば、魂が肉体と分離して存在している、と、嘗ての哲学者たちが考えても不思議ではありません。それに対して今日では、心と身体は分け隔てられるものではない、とか、包括的でバランスの良い身体の使い方を目指そう、という考え方が一般的のようです。しかし、本当に心と身体とは一つなのか? 私たちの身体も、決して不死身ではありません。また、どんなに若かったからといって、身体は決して、持ち主の自由にはならないのです。

放っておくと自由にならない、その身体を、人は様々なかたちで動かそうとします。年齢や性別、その他もろも

ろの条件に関わらず、誰でもが、身体を使い、例えば、歌おうとか、踊ろうとか、するのではないのでしょうか。

不思議な（というか、当然な）ことに、踊ることの出来ない音楽は存在しません。これはつまり、踊れない身体は存在しない、音楽のない身体は存在しない、ということの意味します。

身体と音楽を切り口として、会員のみなさんのさまざまな見解のエクステンションが出来れば幸いです。

#### 【参考文献】

バルト, ロラン (1984) 「ムシカ・プラクティカ」『第三の意味 映像と演劇と音楽と』  
沢崎浩平訳, みすず書房, pp. 177-184.

### (投稿時のお願い)

- 投稿の際には、特集の募集原稿であることを必ず明記してください。
- 特集投稿締切：2008年10月末日必着
- vol.6 no.2 (通巻12号) 特集投稿送付先:

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科  
初等カリキュラム開発講座権藤研究室気付 日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕  
[jmesedit@hiroshima-u.ac.jp](mailto:jmesedit@hiroshima-u.ac.jp) 電話 082(424)7137 (FAX兼用)

\*ただし、『音楽教育実践ジャーナル』vol.6 no.2 特集投稿以外の原稿の送付先は従来通り事務局本部（私書箱）です。

- 論文、実践報告、提言等、種別の希望がありましたらお知らせください。
- 書式、字数等は『音楽教育実践ジャーナル』投稿規程をご参照ください。
- 原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一10日以上経っても通知がない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。
- 採択された原稿については、編集委員会から11月末日までに投稿者に連絡いたします。

## 2-4 40周年記念事業について

### 日本音楽教育学会記念誌「40年の歩み」

「40年の歩み」編集委員会

委員長 岩崎洋一

日本音楽教育学会ではこれまで10年おきに、記録集として記念誌を残してきました。そこで、来年度が40周年を迎えるにあたり、「40年の歩み」と題して1999年から2008年までの学会の歩みをまとめる作業に入ったところです。内容は、① 会員数、予算、論文数、口述発表数、等、② 学会誌掲載論文タイトル、③ 研究発表タイトル、④ 課題研究、プロジェクト研究、⑤ シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、基調講演、フォーラム、⑥ 音楽ジャーナル、⑦ 音楽教育ゼミナール、⑧ 例会、⑨ ニュースレター、⑩ 役員、各種委員、事務局、その他、それぞれの活動がリアルに伝わる写真を組み込んだ体裁を予定しています。

この10年間を概観してみると、新たな企画として、「音楽教育実践ジャーナル」「ニュースレター」が立ち上がり、すそ野の広い音楽教育を目指すとともに、情報の共有を図ってきました。また、研究面では論文数に比べ口述発表の本数の伸びが顕著になってきています。そして、シンポジウムを含めた動向を見ると、この10年間の音楽教育が求めてきた内容と課題が浮き彫りになってくるのではないのでしょうか。出版は2009年度の大会時を予定しており、編集委員として複数の理事の方々が関わっての編纂作業が始まります。

## 40周年記念論文集 第二次募集のお知らせ

40周年記念論文集編集委員会

委員長 安田 寛

編集委員会では来年秋の刊行をめざして鋭意作業をすすめています。本年3月31日締切の第一次募集には会員の皆様から多数の応募をありがとうございました。編集委員会では厳正な審査を行い、採択論文を決定しました。

その結果、各分野若干の採用枠がありますので第二次募集を行います。会員の皆様からの応募をお待ちしております。

### 第二次募集応募要項

締切：平成20年9月30日（締切当日消印有効）

字数：12,000字以内

☆ 書式などその他については学会誌掲載の「『音楽教育学』投稿規程」に準じます。なお、規程の「III 1. エ ① 投稿の種類」には投稿する分野をお書き下さい。分野は「乳幼児」「知覚・認知」「学校教育」「社会教育・生涯教育」「歴史」「障害と音楽教育／音楽療法」の6分野です。



## 2-5 国際交流委員会からのお知らせ

### ご挨拶とご案内

国際交流委員会委員長 藤井 浩基

この4月、国際交流委員会は、近藤真子（オークランド大学，2期目），小川容子（鳥取大学，1期目），村尾忠廣（愛知教育大学，1期目），田中健次（茨城大学，理事選出），藤井浩基（島根大学，2期目）の委員5名で、新体制をスタートしました。委員の互選により、藤井が委員長を仰せつかることになりました。私のような若輩が甚だ僭越ですが、海外のご経験が豊富な委員の皆様のお力を借りながら、本学会の国際交流がさらに活性化するように努力する所存です。なお、副委員長については、委員の総意で、小川容子委員にお願いしました。

本年1月には、日韓合同ゼミナールが成功裡に開催され、本学会の国際交流も新たな段階に入りました。7月にはイタリアのボローニャでISME世界大会が開催される予定です。日本からも多くの方々が参加されることでしょう。国際交流委員会では、これまで関係者の皆様が開拓し、大切に育てこられた国際交流のネットワークを引き継ぎ、強化していきたいと思えます。具体的には、ISMEのグループ会

員としての活動、姉妹学会である韓国音楽教育学会との交流、ニュースレターや学会ホームページを利用した国内外の情報発信等を活動の中心に位置づけています。また、前委員会から懸案になっている、音楽教育に関する外国の資料、研究物の蒐集や交換等について、その取り扱いの検討にも着手したいと考えています。

8月14日、15日には、韓国音楽教育学会夏期セミナーが、韓国・忠清北道にある韓国教員大学校で開催されます。このセミナーには本学会の吉田孝会長が招聘されており、8月15日には講演が行われることになっております。詳細についてのご案内は、もう少し先になりそうですが、最新情報は随時、日本音楽教育学会のホームページにアップデートする予定です。

国際交流委員会は発足して4年目に入ったばかりの新しい組織です。立ち上げから軌道に乗るまでの大変な中、ご尽力いただいた奥忍前委員長、小川昌文、塩原麻里、中地雅之の旧委員の方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

## 2-6 ISME第28回世界大会のご案内

国際交流委員会副委員長 小川 容子

ISME第28回世界大会は、今年7月20日から25日にかけて、イタリア（ボローニャ大学）で開催されます。大会のテーマは「Music at all ages」です。乳児から熟年世代まで、あらゆる世代における音楽の意味や意義について、皆で考えましょう、という熱いメッセージです。過去最大数の研究発表と演奏グループの参加が予定されており、これまで以上に刺激的、且つグローバルな音楽交流が

なされることでしょう。ボローニャはエミリア・ロマーニャ州の州都であり、中世の古都・学園都市として有名です。柱廊が続く美しい街並みを見ながら、おいしいイタリアワインを酌み交わし、素敵な音楽談義をいたしませんか。

尚、世界大会に先立って傘下の7委員会セミナーが、以下のような日程で開催されます。

- (1) リサーチセミナー  
Research Seminar  
7月13日～18日 於ポルトガル（ポルト）
- (2) コミュニティ音楽活動セミナー  
Community Music Activity  
7月15日～18日 於イタリア（ローマ）
- (3) 乳幼児音楽教育セミナー  
Early Childhood Music Education  
7月14日～19日 於イタリア（ローマ）
- (4) 音楽専門教育セミナー  
Education of the Professional Musician  
7月15日～18日 於イタリア（スピランベルト）
- (5) 文化・教育・マスメディアセミナー  
Music Policy; Cultural, Educational and Mass Media  
7月15日～18日 於イタリア（ボローニャ）
- (6) 学校音楽と教師教育セミナー  
Music in Schools and Teacher Education  
7月14日～18日 於イタリア（ローマ）
- (7) 特別教育・音楽療法・音楽医療セミナー  
Music in Special Education, Music Therapy and Music Medicine  
7月16日～18日 於イタリア（ボローニャ）

世界大会については、

<http://www.isme.org/2008/en?Itemid=1>

各委員会セミナーについては、

<http://www.isme.org/en/commissions/calls-for-commission-seminars-2008.html>  
をご覧ください。

## 2-7 第39回全国大会の日程・企画について

### 日本音楽教育学会第39回全国大会（国立音楽大学）のご案内

大会実行委員長 藤沢章彦（国立音楽大学）

本年の大会を次のような日程で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

第1日 11月8日（土）

8:45-	9:30-12:00	12:00-13:00	13:00-14:30	14:45-16:15	16:30-17:15	17:30-19:00
受付	研究発表Ⅰ	昼食	ワークショップ ・音楽療法 ・合唱 ・幼児音楽 ・リトミック	研究発表Ⅱ  プロジェクト 研究	総会	懇親会 (学内食堂)

第2日 11月9日（日）

8:45-	9:00-12:00	12:00-13:30	13:30-14:30	14:40-16:00
受付	研究発表Ⅲ	昼食  院生フォーラム	全体会1  (音楽療法)	全体会2  (様式と演奏)

\* 時間と内容は変更される場合がありますので、ご注意ください。

交通：

- ・東京駅—JR中央線立川駅（約1時間）—多摩都市モノレール立川北駅—玉川上水駅（約10分）—徒歩7分で大学
- ・JR山手線高田馬場駅（西武新宿線）—玉川上水駅（約40分）—徒歩7分で大学

内容について：通常の研究発表のほかに、下記のような「くにたち」らしい内容を盛り込んで、開催いたします。

- ① ワークショップ=4つのワークショップを開きます。講師は次の先生方です。  
「音楽療法」八重田美衣、「合唱」永井宏、「幼児音楽」繁下和雄、「リトミック」中館栄子ほか
- ② 全体会1「音楽療法」講師は遠山文吉先生。ワークショップでの体験的なものの原理から音楽療法の実際と現状、これからの課題や展望を総括的にお話しいただく予定です。  
全体会2「様式と演奏」講師はピアニストの小原孝先生。クラシックからポピュラーまで幅広く活躍されている小原先生の楽しいトークを交え、作曲様式または演奏様式によって多彩な演奏表現、演奏効果を生むことについてのレクチャーコンサートを計画しています。

## 常任理事企画

### プロジェクト研究1 「教員養成大学のイノベーション」

昨年度の「音楽大学のイノベーション」に続いて、今年度は「教員養成大学のイノベーション」を常任理事企画として行います。教員養成大学は、わが国における学校の音楽科教員の最大の供給源であり、音楽教育に関わる人材育成の中核を担っています。しかし、音楽科教員の採用事情は依然として厳しく、現在もなお過酷な競争を強いられています。また、教員養成大学に在籍しながらも教員を目指さない学生も少なくありません。そのような中、最近の教員養成大学の状況はどうなっているのか、それぞれ

の大学の取り組みや挑戦を明らかにし、これからの教員養成大学における音楽科教員養成のあり方について展望します。

内容は、昨年度に準じて前半を西島央氏によるアンケート調査の発表、後半をシンポジウムの2部構成にする予定です。昨年よりもさらにパワーアップして、インパクトのあるものにしたいと思っております。当日は多くの方に参加していただき、活発な議論が展開されることを願っております。

(文責：小川昌文)

### プロジェクト研究2 「新学習指導要領を読む」

文部科学省は、3月28日、新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領および中学校学習指導要領等を公示しました。そこで国立大会では、常任理事企画のプロジェクト研究として「新学習指導要領を読む」を行いたいと思います。主旨は、「新学習指導要領を多角的・客観的に読み、音楽科教育の今後を考える。」です。パネリストには、松下耕氏（作曲家、合唱指揮者）、村尾忠廣氏（愛知教育大学教授）、吉田孝氏（日本音楽教育学会会長、弘前大学教授）を予定しています。

吉田氏には、中央教育審議会芸術専門部会委員として学習指導要領改訂の基本的方針の作成に関わってこられたお立場から新学習指導要領の全体像と特徴を語っていただきます。村尾氏には音楽教育学の研究者としてのお立場から、松下氏には作曲家としてのお立場から、新学習指導要領について語っていただきます。それぞれのご意見をうかがい、皆様方とご一緒に新学習指導要領施行後の音楽科教育を考えたいと思います。

(文責：三村真弓)

## 2-8 夏期ワークショップのご案内

### 日本音楽教育学会第4回夏期ワークショップ in Tokyo つくって、たたいて、おどって、あわせて

日本音楽教育学会第4回夏期ワークショップを、8月18日・19日の両日、東京音楽大学にて、開催します。パフォーマンスコースは、ワガン・ニジャエ・ローズさんによる、セネガルのサバールのワークショップ、授業づくりコースは、会員の牧野淳子さんによる、音楽ゲームから音楽づくりへの発展をめざした授業づくりワークショップです。両日とも、心と身体と耳を思う存分に使います。動きやすい服装でご参加ください。

参加費は下記のとおりです。同封案内チラシの申し込み用紙に必要事項を記入の上、7月末日までに本学会事務局宛てにファックスまたはEメールにてお申し込みください。

会員の皆様の積極的な参加をお待ち申し上げます。また、会員以外の方にも、ぜひご紹介いただき、お誘いくださいますようお願いいたします。

開催日 2008年8月18日(月)・19日(火)  
会場 東京音楽大学B館 513号室  
人数 50人程度(希望者多数の場合、先着順といたします)  
参加費 両日参加：会員 5,000円(非会員 6,000円)  
1日参加：会員 3,000円(非会員 3,500円)

パフォーマンスコース 8月18日(月) 12時30分～17時(12時受付開始)  
セネガルのサバールドラム ーたたこう！おどろう！あわせよう！ー  
ワークショップ・リーダー：ワガン・ニジャエ・ローズ(サバール奏者)

「サバール」は西アフリカ、セネガルの伝統的な太鼓・リズム・踊りの総称です。  
ワークショップでは、ドラム・アンサンブルとセネガルの踊りの両方を楽しめます。

授業づくりコース 8月19日(火) 10時～15時30分(9時30分受付開始)  
音楽ゲームから音楽づくりへ with BAMBOO  
ワークショップ・リーダー：牧野淳子(京都芸術大学・滋賀大学非常勤講師)

小・中・高等学校で、そして大人も一緒に楽しめる「音楽ゲーム」と「竹」をキーワードとした音楽づくり・創作の活動を体験します。竹楽器の持ち込み、大歓迎です。

### 3. 事務局からのお知らせ

#### 3-1 事務局長挨拶

##### ごあいさつ

日本音楽教育学会事務局長 齊藤忠彦

この4月より事務局長に就任いたしました齊藤と申します。甚だ経験の浅い若輩者ですが、2年間という任期を全うできるように努力だけはさせていただく所存です。どうぞよろしく願いいたします。今期の事務局の方針につきまして、3点ほど述べさせていただきます。

##### ○より魅力的な学会づくりの窓口

会員数が1,500名近くの大きな組織です。会員お一人おひとりのご要望やご意見に十分に対応できるかはわかりません。しかし、お一人おひとりの声によって、より魅力的な学会をつくりあげていくことはできます。事務局がその窓口になれるように努力していきたいと思っております。

##### ○会員の皆さまにとって身近な事務局を

申し上げるまでもありませんが、学会は会員の皆さまの会費によって運営されています。年会費を確実にお納めいただくことに感謝しつつ、その還元を会員の皆さまに実感していただけるような事務局のサポートをさせていただきたいと思っております。事務局スタッフも新メン

バーが加わり、不慣れな点も多いかと存じますが、どうぞ気軽にお問い合わせやご意見などいただけたら幸いです。

##### ○事務業務のシステム化、効率化を

前事務局長と前事務局スタッフの皆様の大なるご尽力により、事務業務のシステム化が図られています。今後も事務業務のシステム化を一層進め、さらに業務内容の精選と効率化を目指したいと思っております。

新体制に移行するにあたり、前事務局長の有本真紀先生をはじめ、事務局スタッフの中村幸子さん、岩渕育子さんには、懇切丁寧な引き継ぎをしていただきました。心より御礼申し上げます。

新体制では、本部事務局に亀山さやかさん、山本由紀子さん、編集担当を広島市の光平有希さんをお願いしています。なお、防犯上等の理由により、6月3日に事務局の移転をいたしました。事務局運営が軌道に乗るまで会員の皆さまにご迷惑をおかけすることもあろうかと思っておりますが、どうぞご支援ご教示のほどよろしくお願い申し上げます。

## 3-2 事務局スタッフより

### ♪ 岩渕 育子 ♪

2年半の間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(岩渕さんには事務局会計業務を中心に、5月末まで担当していただきました。)

!

### ♪ 亀山さやか ♪

昨年よりご縁をいただき、本学会事務を勤めさせていただいております。音楽教育の発展に第一線でご活躍されている先生方、熱心に研究・発表されている会員の皆様がいらっしゃるこの素晴らしい学会に、事務として参加させていただけることを嬉しく思っております。音楽を学び、音楽教育に携わる一人として、これからも学会の発展のため精一杯取り組んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### ♪ 山本由紀子 ♪

5月から事務局でお世話になっております。まだまだ不慣れでご迷惑おかけすることもあるかもしれませんが、皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

### ♪ 光平 有希 ♪

5月から編集委員会の事務的な作業を担当しております。広島での仕事となりますが、事務局本部としっかり連携して確実、迅速な対応ができるよう精一杯努めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

(これまで事務局業務の全般をお願いしてきました中村さんには、現在、引き継ぎ業務を継続していただいています。中村さんからのご挨拶は次号に掲載いたします。)

## ----- 【編集後記】 -----

新執行部として最初のニューズレターの発行です。記事の執筆者の方たちには早々に原稿をいただきましてありがとうございました。また、理事の皆様にも原稿の校正にご協力いただきました。年度初めということもあって、ニューズレターとしてはやや厚めのものになってしまいました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

紙面のレイアウト等がこれまでとはあまり大きく異ならないように工夫しましたが、読者の方々にとって読みやすさの点ではいかがでしたでしょうか。ご意見等がございましたら、事務局までお知らせいただければ幸いです。

(北山敦康, 嶋田由美)

## 平成20～21年度 日本音楽教育学会役員

会 長：吉田 孝  
副 会 長：北山敦康  
常任理事：齊藤忠彦（事務局長），嶋田由美・津田正之（総務），田中健次（会計）  
小川昌文・杉江淑子・三村真弓（企画），八木正一（編集）  
理 事：尾藤弥生（北海道），降矢美彌子（東北），佐野 靖・筒石賢昭・  
坪能由紀子・藤沢章彦・本多佐保美（関東），村尾忠廣（東海），  
安田 寛（近畿），吉富功修（中国・四国），岩崎洋一（九州）  
会計監事：奥 忍，今川恭子  
事 務 局：亀山さやか，山本由紀子，光平有希

## 日本音楽教育学会事務局

### 【事務局本部】 移転しました！

事務局の住所は下記のように変更になりますが，私書箱の住所，電話番号，メールアドレスは従来と変わりません。

所在地：〒184-0004

東京都小金井市本町5-38-10-206 日本音楽教育学会事務局

TEL&FAX 042-381-3562

E-mail onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-0015 東京都小金井郵便局私書箱26 \*郵便物は私書箱へ

開局日：火・水・木・金 10:00～16:00 \*金曜日は午前中のみ

### 【事務局編集担当】

所在地：〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座 榎藤研究室気付

日本音楽教育学会事務局〔編集担当〕

E-mail jmesedit@hiroshima-u.ac.jp